

助成事業実施報告書

団体名 一般社団法人(非営利型)

やまと災害ボランティアネットワーク

代表者・役職名 氏名 代表理事 市原 信行

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

学生福祉防災かながわ連携プロジェクト

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

阪神淡路大震災から地域の災害ボランティアの大切さを知り、1999年4月に発足 2013年4月に一般社団法人として法人化、会員数35名登録会員900名、災害地の支援活動や地域防災減災活動に力を注ぎ活動を展開しております。

特に近年は高校生や大学生に防災意識の向上と地域防災リーダー育成研修や被災地の同学年との交流事業や、神奈川県内での福祉と防災等の研修事業へ力を注いでおります。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

神奈川県内の学生(高大生など)同士の連携と、地域との連携を目指します。
平時からの学生たちへ福祉と防災を共に考えていただき、各地域の総合防災訓練や県総合防災訓練への参加や、地域での福祉防災へ積極的に参加、災害ボランティアセンター等の図上訓練や想定訓練などにも積極的に参加をしてくれる学生を育成していく事が地域防災への大きな力となります、また地域などでも学生の参加を強く希望しています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

1・学生による防災減災などの語り場の提供(学生同士による防災と福祉などの議論の場)
8月7・8・9日による、宮城県への研修(学生25名参加) 7月21日事前研修と説明会開催(学生24名参加)
被災状況などの学びを教訓とし、学生同士での話し合う場が多く持てた

2・学生による被災地などの事を教訓とする場(宮城県などへ被災地研修)(8月7・8・9日実施)

石巻市旧大川小学校視察、研修、(学生25名参加)

7月に発生した豪雨災害、岡山、広島、愛媛、岐阜など多くの地で豪雨による災害が発生し、学生を集め被災地への支援をという事で、神奈川県内からボランティアバスなどを運行、そこに当団体関係の学生、計45名を派遣、この災害で多くの学生が教訓とできる被災地へ行き活動をし、神奈川に活かせるグループがまた出来ました。

3・学生による福祉防災大会の開催(11月予定)(豪雨災害もあり)

学生主体による会議を9月・10月とかさね11月の予定を組みましたが、日程調整がうまくいかず順延となりました3月に共に行うという事で調整しました、学生主体での日程調整などが進まず、話し合いは佳25名の学生が参加とても良いムードでの会議ではありました。10月に「平成30年豪雨災害支援バスを運行」多くの学生が参加しました。

4・学生による福祉と防災を考える場の提供(3月予定)

11月の反省を踏まえ、話し合いを多数行い、学生が連携を模索し予定がずれましたが、6月にやっと集まり

5・学生による福祉と防災のグループの設立を目指す。(時期は少しずれましたが)

2019年6月23日神奈川大学にて学生防災ミーティング開催、5校15人の大学生が連携会議を開始しました。

2019年7月4日神奈川県版図上訓練実行委員会(仮称)設立、その中で学生訓練実行委員会(仮称)設立
現在も活動中

今後も学生主体のグループづくりに力を注ぎます。

6・上記活動などを、学生による広報活動などを行い、多くの学生達へ知っていただき、参加いただく事を目指す活動を、平時から行います。

SNS(フェイスブック、LINE、Instagram、などと当団体のHPなど利用)を使い情報の発信を多くしてきました、学生が情報を得て、ボランティアバスへ参加などの大きな成果をもたらしています。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

神奈川県内での学生連携を推進する協力大学などが多く出て来てくれました、東海、関東学院、神奈川などの大学や先生方、6月23日にはきっかけの学生連携を推進する会も開催できました(参加学生15名)

2018年度での県市民活動課や県社協との意見交換などもでき、NPO協働推進課などの協力の元、学生ミーティングを2019年度に開催することも計画中です。平時から学生の役割(防災減災など)活動を持っていただくなど、学生が責任を持てるような活動への多くの支援が得ることが出来ました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

2019年度で神奈川版図上訓練(仮称)の計画があります、この訓練は静岡県や東京のように多くの方々を巻き込み県域全体での訓練を目指して活動が開始されました、この訓練等の中でも県全体の会議体構想や県域学生連携を模索し始めました。今年度参加してくれている学生を主に、県域学生防災連携をスタートさせていきます。多くの支援者が必要となります、多くの広報なども必要となります(オリンピックぐらいの広報をしなければ神奈川県域には伝えることが難しいかも(笑))、今までの防災減災にとらわれることなく、活動ができるように多くの皆様が必要となります。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり



「宮城県 被災地防災研修」

神奈川県内の高校生、大学生参加者募集

2018. 4. 19

平成 30 年 8 月 6 日(月)～8 日(水) 横浜発 参加者募集!

宮城県被災高校生や語り部、住民との交流による防災研修です。

被災地の今を見て、学び、考えてみませんか、あなたのご参加をお待ちしております。

真如苑助成事業・支援事業等多くの支援で催行されます。

	月日	行程	食事
事前	7/21 (土)	事前説明会、事前研修、集金、承諾書持参(出席できない方は別日指定します) 神奈川県民センター11階 講義室にて 18:00～	× 参加費持参
1	8/6 (月)	横浜 神奈川県民センター(集合 20:00～出発式 20:15)・徒歩・横浜駅西口 天理ビル前(22:00 出発)【高速道路】＝ <車中泊>	夜:×
2	8/7 (火)	＝鳴瀬奥松島 IC＝旧大川小学校など到着(早朝)＝巡見、防災研修や交流会(8:00～15:00)＝被災者や、被災地高校生との交流会(16:00)松島フットボールセンター＝風呂、夕食＝防災研修、消灯	朝:各自 昼:○(弁当) 夜:○
3	8/8 (水)	東松島市など被災地ボランティア作業など(12:00 ごろまで)＝鳴瀬奥松島 IC＝【高速】(13:00 ごろ昼食)＝横浜駅西口(20:00 頃)	朝:○ 昼:各自

【日程】 2018年8月6日(月)～8日(水)(夜行1泊3日間)

【募集〆切】 2018年7月21日(土)(定員30名になり次第締め切ります。)

【参加費】 高校生 10,000 円(単独参加可能・同意書必要)(引率者は1名同額)
大学生 12,000 円(単独参加可能・同意書必要)(高校生優先になります。)
一般 18,000 円(高校生主体の為人数制限があります、抽選)

【旅行代金に含まれるもの】 往復交通費、記載の食事費、宿泊費、行事保険

※被災地でのお約束を守れない場合、強制的にお帰りいただくこともあります。自己負担

【募集人数】 30名(申し込み順) 【添乗員】 スタッフが同行いたします。

【防災研修内容】 被災地の地域の方や高校生との交流、被災地視察、被災地ボランティアなどを予定しています、現地の状況等により内容の変更もあります。

お問合せは 事務局 やまと災害ボランティアネットワーク まで。

E-mail: ysv0401@yahoo.co.jp FAX:046-261-1956 電話 090-9349-5410

8月6日出発希望とメール、もしくはFAXにてお申し込みください、追ってメールにて申し込み用紙、保険加入方法、親権者保護者等の同意書をお送りします。

氏名(よみかた)、年齢、性別、メールアドレスもしくはFAX番号を必ずご記入下さい。

旅行企画:主催会社 山口自動車株式会社 YM交通

神奈川県知事登録旅行業 第2-1072 取り扱い管理者 松尾 健一

企画協力 一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク 「真如苑助成事業」

NPO法人 よこはま・七つ星 ・協力 NPO法人神奈川災害ボランティアネットワーク

